

第4章

高校1年時から高校3年時における進路意識の変容

——職業別に見る「検討」の持続性——

永島 郁哉

【ポイント】

- 職業検討の持続率は一様ではなく、職業ごとに学年進行に伴う維持・低下のパターンが明確に異なる。
- 医療系・研究者・教員などは相対的に持続率が高い一方で、芸術系は高校3年生段階にかけて低下するなど、持続／変更は個人の意志というより到達ルートや制度的可視性といった条件に左右される可能性がある。
- したがって、高校段階でのキャリア教育は「早期決定」や「一貫性」を成果として促すのではなく、揺らぎを前提に高等教育や地域社会への接続条件を整えることが課題である。

1. キャリア教育と職業選択

学校空間から労働市場への移行を素朴に想定できなくなった現代社会において、キャリア教育が重要なテーマとなっている。キャリア教育とは、「人が、生涯の中で様々な役割を果たす過程で、自らの役割の価値や自分と役割との関係を見出していく」こと、すなわち「社会的・職業的自立」に向けて、「必要な基盤となる能力や態度を育てること」だと理解されている（中央教育審議会 2011: 17）。そこでは特に学校教育の重要性が認識されており、学校教育の中で、「基礎的・基本的な知識・技能や専門的な知識・技能とともに、子どもや若者がどのような状況におかれても、社会に適応したり、置かれている状況を自分で打ち破ったりしながら、社会の中で自分の能力を発揮できるようにする」態度を発達段階に応じて醸成することが目指されている（中央教育審議会 2011: 29）。

こと高等学校段階は、「社会人・職業人としての自立が迫られる時期」（中央教育審議会 2011: 48）であることから、「生涯にわたる多様なキャリア形成に共通して必要な能力や態度を身に付けさせ、これらの育成を通じて、価値観、とりわけ勤労観・職業観を自ら形成・確立させること」が喫緊の課題として要請されているといえる（中央教育審議会 2011: 45）。そこでは、高校生が「自己の将来に夢や希望を抱き、その実現を目指して進んで学習に取り組む意欲を持ち、自己の個性や能力をいかす進路を自らの意志と責任で選択し、決定していくこと」（中央教育審議会 2011: 41）が求められる。

このことを前提に高校生とキャリアの問題について考えてみると、焦点化すべき論点は少なくとも二つある。第一に、キャリア教育が要請する「主体的な進路選択」は、単に「職業を早期に決めること」と同義ではないにもかかわらず、実際の学校現場や施策運用の水準では、しばしば進学先や就職先の「早期決定」や、特定の職業プログラムへの「早期参与」が目指されやすい。そのために、学校段階のなるべく早い段階で就きたい職業を決め、進学先を決定することが、規範的に語られることがある。第二に、進路意識は多くの場合単線的ではなく、職業選択の揺らぎ——職業の変更、複数選択、判断留保等——を伴うにもかかわらず、職業の決定は固定的で最終的なものとして見なされやすい。このことによって、継続して同じ職業を希望していることが「主体性」や「自立」として評価されるという状況が生じ得る。

したがって、高校生がどの段階で具体的な職業を検討し始め、どの段階で検討を深め、あるいは変更していくのかという時間的構造を捉えることは、職業選択をめぐる早期性と持続性の問題を批判的に捉えるうえで基礎的な知見となる。そこで本稿では、調査対象者の高校生が1年生から3年生までの各段階でどのような職業を検討していたかを通時的に分析し、ある職業を検討することが早期性および持続性とどのように関連しているのかを明らかにしたい。

2. 分析

分析では、検討職業について聞いた設問（「続いて、将来の職業として検討しているものをすべて選択してください。」）を使用する。本調査では将来の職業として検討している職業を、高校生1年生調査（wave1）と高校生2年生調査（wave2）では全22種、高校生3年生調査（wave3）で全26種の中から選択してもらった¹⁾。これに加えて、「その他」と「特に就きたい職業はない」を選択肢として用意した。

（1）検討職業

以降では、本調査の対象となった高校生が、具体的な職業をどの段階で検討し始め、それをいつまで維持するのかという点を探索する。この問題を考えるにあたって次の3つの仮説を検証してみたい。①「特に就きたい職業はない」と回答する「未定層」は学年が上がるごとに減少する。②検討する職業の数は学年が上がるごとに減少する。③高校3年生時点で特定の大学や学部に進学する必要がある職業を検討している層は、少なくとも1年以上前から検討を継続している可能性が高い。

一つ目については、進路指導が増え、卒業が近づくにつれ、何かしらの職業を検討し始める人が大勢を占めると予想される。二つ目は、高校1年生の段階では将来のキャリアを思い描きづらいために、複数の職業を同時検討するのに対し、高校3年生の段階では進学や就職に向けて検討職業を絞る可能性がある。三つ目について、医師や薬剤師、看護師、教員等のように特定の大学・学部・養成課程への進学が実質的に前提となる職業では、必要な科目選択や受験準備、情報収集が高校段階の早い時期から要請されやすい。そのため、高校1年生や高校2年生の時点でこれらの職業を検討していた者は、それ以降も同一職業を継続的に検討している可能性が相対的に高いと考えられる²⁾。換言すれば、後発参入が難しいゆえに、結果的にその職業を早期から検討している層が相対的に多くなる可能性がある。

はじめに、wave1～wave3それぞれの度数分布表を示したのが表4—1である。

①の仮説について見ていくと、表4—1より「特に就きたい職業はない」を選択した人は、10.7%（wave1）、8.8%（wave2）、0.1%（wave3）と減少していることがわかる。調査対象の高校生は、学年が進むにつれ（特に高校2年生から高校3年生段階へと進むことで）何かしらの職業を検討するようになったと言える。

また、②の検証にあたって、検討している職業の数を wave1～wave3 それぞれで示した（表4—2）。ここからは、検討する職業の数が調査を通じてほとんど変化していないことがわかる。wave1～wave3 のいずれの調査でも回答者の6割以上が1～2個の職業のみを検討しており、3個まで含めると8割を超えている。高校1年生段階でも同時に検討する職業は2～3個程度に収まっており、学年が上昇してもその数を下回ることはないと言える。

続いて③を検証するために、それぞれの職業の持続率を表したのが次の表4—3である³⁾。持続率は、同一の職業を持続して検討していた人の数を、その職業を検討していた人の

表 4—1 検討する職業の推移

| 検討職業 | wave1 (N=1512) | | wave2 (N=1607) | | wave3 (N=1541) | |
|------------------------------------|-------------------|-------|-------------------|-------|-------------------|-------|
| | 度数 | 有効% | 度数 | 有効% | 度数 | 有効% |
| 国会・地方議員 | 36 | 2.4% | 34 | 2.1% | 38 | 2.5% |
| 企業の経営者 | 131 | 8.7% | 144 | 9.0% | 167 | 10.8% |
| 研究者 | 145 | 9.6% | 128 | 8.0% | 160 | 10.4% |
| (食品、電気、機械、金属、化学、建築、IT、SEなどの)技術者 | 195 | 12.9% | 207 | 12.9% | 223 | 14.5% |
| 医師、歯科医師、獣医師 | 219 | 14.5% | 141 | 8.8% | 115 | 7.5% |
| 薬剤師 | | | | | 72 | 4.7% |
| 保健師、助産師、看護師 | | | | | 203 | 13.2% |
| 医療技術者、栄養士 | 467 | 30.9% | 455 | 28.3% | 157 | 10.2% |
| 指圧師、鍼灸師 | | | | | 29 | 1.9% |
| (福祉相談員や保育士などの)社会福祉専門職業従事者 | 98 | 6.5% | 99 | 6.2% | 58 | 3.8% |
| (裁判官、検察官、弁護士、弁理士、司法書士などの)法務従事者 | 81 | 5.4% | 83 | 5.2% | 61 | 4.0% |
| 公認会計士、税理士、社会保険労務士 | 69 | 4.6% | 84 | 5.2% | 92 | 6.0% |
| (幼・小・中・高・特別支援などの学校の)教員 | 369 | 24.4% | 372 | 23.1% | 348 | 22.6% |
| 小説家、芸術家、音楽家、俳優 | 123 | 8.1% | 131 | 8.2% | 95 | 6.2% |
| 図書館司書、学芸員 | 88 | 5.8% | 101 | 6.3% | 96 | 6.2% |
| 国家公務員 | | | | | 230 | 14.9% |
| 地方公務員 | 331 | 21.9% | 403 | 25.1% | 414 | 26.9% |
| 民間企業の社員 | 190 | 12.6% | 285 | 17.7% | 367 | 23.8% |
| (販売店、小売店、卸売店、保険代理店、不動産屋などの)店主・店員 | 77 | 5.1% | 132 | 8.2% | 110 | 7.1% |
| 介護職員、理容師、美容師、調理師、飲食店主、旅館主、居住施設管理人 | 108 | 7.1% | 130 | 8.1% | 74 | 4.8% |
| 自衛官、警察官、海上保安官、看守、消防員、警備員 | 90 | 6.0% | 91 | 5.7% | 64 | 4.2% |
| 農家、養畜家、植木職、造園師、育林家、漁師、水産養殖家 | 52 | 3.4% | 51 | 3.2% | 54 | 3.5% |
| 工場作業員、修理工、検査工、塗装工 | 16 | 1.1% | 25 | 1.6% | 21 | 1.4% |
| 鉄道・バス・トラック・タクシー・船舶・航空機の運転(操縦)士 | 31 | 2.1% | 30 | 1.9% | 28 | 1.8% |
| 大工、左官、畳工、配管工、内装工、電気工事作業員、土木作業員、探鉱員 | 36 | 2.4% | 36 | 2.2% | 36 | 2.3% |
| 運搬作業員、清掃員、包装作業員 | 6 | 0.4% | 8 | 0.5% | 6 | 0.4% |
| その他 | 237 | 15.7% | 135 | 8.4% | 316 | 20.5% |
| 特に就きたい職業はない | 162 | 10.7% | 142 | 8.8% | 2 | 0.1% |

表 4—2 検討職業数の推移

| 検討数 | wave1 | wave2 | wave3 | 検討数 | wave1 | wave2 | wave3 |
|-----|-------|-------|-------|-----|-------|-------|-------|
| 1 | 33.6% | 36.5% | 35.5% | 11 | 0.1% | 0.1% | 0.0% |
| 2 | 29.9% | 30.5% | 29.4% | 12 | 0.1% | 0.1% | 0.2% |
| 3 | 18.8% | 18.8% | 16.8% | 13 | 0.0% | 0.1% | 0.0% |
| 4 | 9.6% | 8.0% | 9.4% | 14 | 0.0% | 0.0% | 0.1% |
| 5 | 4.3% | 3.1% | 4.7% | 15 | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| 6 | 1.9% | 0.8% | 2.0% | 16 | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| 7 | 1.3% | 1.2% | 0.7% | 17 | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| 8 | 0.2% | 0.4% | 0.6% | 18 | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| 9 | 0.1% | 0.4% | 0.3% | 19 | 0.0% | 0.0% | 0.0% |
| 10 | 0.1% | 0.1% | 0.2% | 20 | 0.0% | 0.1% | 0.0% |

数の全体で割ったものである。例えば、【wave1-wave2】の「国会・地方議員」の維持率 33.3% は、wave1 で「国会・地方議員」を検討していた人のうち 33.3%が wave2 においても「国会・地方議員」を引き続き検討していたことを示す。なお、【wave1-wave2】および【wave2-wave3】には、wave1 から wave3 まで一貫して同じ職業を選択した人(【wave1-wave2-wave3】)の数も含まれている。

表4—3 職業の検討持続率

| 検討職業 | wave1-wave2 (N=1216) | | wave2-wave3 (N=1180) | | wave1-wave2-wave3 (N=1037) | |
|------------------------------------|-------------------------|-------|-------------------------|-------|-------------------------------|-------|
| | 度数 | 持続率 | 度数 | 持続率 | 度数 | 持続率 |
| 国会・地方議員 | 9 | 33.3% | 9 | 31.0% | 8 | 29.6% |
| 企業の経営者 | 49 | 47.1% | 55 | 52.4% | 33 | 31.7% |
| 研究者 | 49 | 46.2% | 57 | 55.9% | 39 | 36.8% |
| (食品、電気、機械、金属、化学、建築、IT、SEなどの)技術者 | 80 | 52.3% | 84 | 56.8% | 55 | 35.9% |
| 医師、歯科医師、獣医師 | 79 | 47.6% | 65 | 56.5% | 58 | 34.9% |
| 薬剤師、保健師、助産師、看護師、医療技術者、栄養士指圧師、鍼灸師 | 257 | 67.1% | 225 | 66.8% | 187 | 48.8% |
| (福祉相談員や保育士などの)社会福祉専門職業従事者 | 41 | 48.8% | 28 | 35.9% | 20 | 23.8% |
| (裁判官、検察官、弁護士、弁理士、司法書士などの)法務従事者 | 31 | 47.7% | 28 | 40.6% | 12 | 18.5% |
| 公認会計士、税理士、社会保険労務士 | 26 | 46.4% | 28 | 42.4% | 11 | 19.6% |
| (幼・小・中・高・特別支援などの学校の)教員 | 189 | 62.0% | 184 | 63.9% | 142 | 46.6% |
| 小説家、芸術家、音楽家、俳優 | 56 | 53.8% | 45 | 43.7% | 34 | 32.7% |
| 図書館司書、学芸員 | 43 | 59.7% | 42 | 50.6% | 27 | 37.5% |
| 国家公務員、地方公務員 | 164 | 62.4% | 206 | 64.8% | 118 | 44.9% |
| 民間企業の社員 | 93 | 57.8% | 134 | 60.6% | 66 | 41.0% |
| (販売店、小売店、卸売店、保険代理店、不動産屋などの)店主・店員 | 27 | 40.9% | 40 | 40.4% | 13 | 19.7% |
| 介護職員、理容師、美容師、調理師、飲食店主、旅館主、居住施設管理人 | 37 | 41.6% | 30 | 30.6% | 18 | 20.2% |
| 自衛官、警察官、海上保安官、看守、消防員、警備員 | 27 | 42.2% | 27 | 42.2% | 17 | 26.6% |
| 農家、養畜家、植木職、造園師、育林家、漁師、水産養殖家 | 14 | 36.8% | 21 | 53.8% | 8 | 21.1% |
| 工場作業員、修理工、検査工、塗装工 | 4 | 26.7% | 8 | 38.1% | 3 | 20.0% |
| 鉄道・バス・トラック・タクシー・船舶・航空機の運転(操縦)士 | 12 | 50.0% | 12 | 42.9% | 8 | 33.3% |
| 大工、左官、畳工、配管工、内装工、電気工事作業員、土木作業員、採鉱員 | 13 | 41.9% | 13 | 48.1% | 10 | 32.3% |
| 運搬作業員、清掃員、包装作業員 | 1 | 20.0% | 0 | 0.0% | 0 | 0.0% |
| その他 | 48 | 24.9% | 45 | 43.3% | 23 | 11.9% |
| 特に就きたい職業はない | 39 | 32.0% | 1 | 0.9% | 0 | 0.0% |

はじめに【wave1-wave2】の検討持続率を見ていくと、数値が高い順に、「薬剤師、保健師、助産師、看護師、医療技術者、栄養士、指圧師、鍼灸師」(67.1%)、「国家公務員、地方公務員」(62.4%)、「(幼・小・中・高・特別支援などの学校の)教員」(62.0%)、「図書館司書、学芸員」(59.7%)、「民間企業の社員」(57.8%)、「小説家、芸術家、音楽家、俳優」(53.8%)、「(食品、電気、機械、金属、化学、建築、IT、SEなどの)技術者」(52.3%)…と続く。一方で、【wave2-wave3】の検討持続率に目を移すと、「国家公務員、地方公務員」(66.8%)、「薬剤師、保健師、助産師、看護師、医療技術者、栄養士、指圧師、鍼灸師」(64.8%)、「(幼・小・中・高・特別支援などの学校の)教員」(63.9%)、「民間企業の社員」(60.6%)、「(食品、電気、機械、金属、化学、建築、IT、SEなどの)技術者」(56.8%)、「医師、歯科医師、獣医師」(56.5%)、「研究者」(55.9%)、「農家、養畜家、植木職、造園師、育林家、漁師、水産養殖家」(53.8%)……となっている。【wave1-wave2-wave3】の検討持続率については、「薬剤師、保健師、助産師、看護師、医療技術者、栄養士、指圧師、鍼灸師」(48.8%)、「(幼・小・中・高・特別支援などの学校の)教員」(46.6%)、「国家公務員、地方公務員」(44.9%)、「民間企業の社員」(41.0%)、「図書館司書、学芸員」(37.5%)、「研究者」(36.8%)、「(食品、電気、機械、金属、化学、建築、IT、SEなどの)技術者」(35.9%)、「医師、歯科医師、獣医師」(34.9%)といった職業が上位に位置づいている。

【wave1-wave2】と【wave2-wave3】のデータは、少なくとも1年以上同じ職業を検討し続けていたという点では共通している。両者とも、「薬剤師、保健師、助産師、看護師、医療

技術者、栄養士、指圧師、鍼灸師」「国家公務員、地方公務員」「(幼・小・中・高・特別支援などの学校の) 教員」「民間企業の社員」といった職業では高い持続率が生じていた。これらの職業では、高校1年生段階で検討していた者のうち高校2年生でも同一職業を検討している割合が高く、また高校2年生で検討していた者のうち高校3年生でも検討している割合も高い。また【wave1-wave2-wave3】の結果から明らかなように、これらの職業は高校1年生から高校3年生まで継続して検討される傾向にある。

対して、【wave1-wave2】に特有の性格として、「小説家、芸術家、音楽家、俳優」という職業が比較的高い持続率(53.8%)を持っている点が指摘できる。この職業は、【wave2-wave3】では43.7%に低下しており、【wave1-wave2-wave3】では32.7%である。芸術に関する職業を高校1年生段階で検討していた層のうち、高校生2年生まではそれを一定程度継続させるものの、高校3年生まで連続して維持する傾向は相対的に低い。反対に、【wave2-wave3】では「医師、歯科医師、獣医師」「研究者」「農家、養畜家、植木職、造園師、育林家、漁師、水産養殖家」といった職業が上位に位置づいていることが特徴的である。このうち、「医師、歯科医師、獣医師」「研究者」については【wave1-wave2-wave3】でも持続率が相対的に上位に位置づいている。逆に「農家、養畜家、植木職、造園師、育林家、漁師、水産養殖家」は相対的には持続率が低いことから、【wave2-wave3】において特徴的な持続であると言えるのである。

3. 検討の早期化と持続をもたらす背景要因

以上より、職業によっていつから検討が形成され、どの段階で検討が維持されやすいかという点が異なる可能性が示された。以下では、この差異が生じた背景について考察したい。

はじめに、「薬剤師、保健師、助産師、看護師、医療技術者、栄養士、指圧師、鍼灸師」「国家公務員、地方公務員」「(幼・小・中・高・特別支援などの学校の) 教員」「民間企業の社員」といった職業では、【wave1-wave2】および【wave2-wave3】の持続率がともに高く、さらにwave1からwave3まで連続して同一職業を検討する者(【wave1-wave2-wave3】)の割合も相対的に高かった。すなわち、これらの職業は、ある学年で検討が形成されると、次学年以降も同一職業の検討が維持されやすいパターンを示している。

この背景として、第一に、医療系の職業や教員、公務員は、資格・免許、採用試験、養成課程など、職業への到達に必要な手続きが明確に設定されていることが多く、高校段階での学習が将来の職業選択と結びつきやすい点が挙げられる。すなわち、一般に専門職に分類されるこれらの職業は、特定の大学や学部・学科のカリキュラムと結びついていることから、高校1年生でこれらの職業を検討していた層は、高校での科目選択や志望校選択などを通じて職業への志向性をより強めていく可能性がある。第二に、教育・医療に関する職業は学校生活や地域生活のなかで接触機会が比較的多く、公務員や民間企業の社員も社会的に一般的な職業として馴染みがある。具体的な職業イメージやその職業に就くための実質的な

要件に関する情報に早期から触れることは、検討が長期にわたって維持される条件になり得る。第三に、公務員や民間企業の社員は職務内容の幅が広いために、選択肢の大きな受け皿となった可能性がある。職業の抽象性ゆえに、検討対象としてこれらの職業が検討され続けた——「無難な選択肢」として票を集めた——可能性が指摘できる。

また、「小説家、芸術家、音楽家、俳優」の持続率が、【wave1-wave2】から【wave2-wave3】で低下することは、これらの仕事が受験や進路指導を通じて現実的な職業として持続して検討されにくい可能性を示している。とりわけ、これらの職業は到達に向けた制度的ルートが曖昧であることが多く、進路指導等を通じて職業への道筋を具体的に想定できなかった可能性がある。高校3年生段階へ近づくにつれ、志望の現実性や到達可能性が検討されることで、こうした職業を検討していた層が別の職業へと検討を移行させたと考えられる。

他方で、医師や研究者といった職業は、必要とされる学力水準や進学ルートが明確であるため、高校2年生以降に進路情報や成績の見通しが整うにつれて「到達可能な選択肢」として志望が具体化し、進路意識が醸成されることで、【wave2-wave3】において検討が維持された可能性がある。換言すれば、その職業への到達可能性（学業成績）とその職業への憧れ（希望進路）の両方を備えていることが、高校2年生段階から3年生段階への高い検討持続率をもたらしたと解釈できる。

さらに「農家、養畜家、植木職、造園師、育林家、漁師、水産養殖家」の第一次産業を中心とした職業は、主として家族や地域とのつながりの中で検討されたと推測される。家業を継ぐという選択肢や、地域産業である第一次産業に従事するという選択肢が、本格的な進路指導を迎える高校2年生段階で意識され、高校3年生までそれが持続した可能性がある。

もっとも、以上の解釈は本章の分析から因果的に確定できるものではない点に注意されたい。それぞれの職業に対しては上記の説明が当てはまらないケースもあり、一般化された推論の域を出ない。とはいえ、特定の職業に上述の傾向が確認できることは確かであることから、職業ごとに検討の持続性や早期性に関する異なる特徴が見出されたと結論づけることは可能である。

4. キャリア教育と高大接続

本章は、高校1年生から高校3年生年時点における「検討職業」の通時的変化を、職業別の持続率として捉え直した。その結果、医療系・教員・公務員等のように資格や免許、採用試験、養成課程といった職業への到達過程が相対的に明確な職業では、学年をまたいで検討が維持されやすい一方、芸術系の職業では高校3年生段階に近づくにつれて持続率が低下するなど、「検討の持続性」それ自体が制度的な条件に強く規定される可能性が示唆された。このことが示すのは、「同じ職業を長く検討している＝主体性がある・自立志向が強い」といった単純な評価は成り立たない、という点である。持続は、個人の意志の強さだけではなく、到達ルートの明確さや、学校・地域等での接触機会、職務の抽象性といった諸条件の総

体として生じ得る。この知見は、キャリア教育の実践や政策がしばしば抱え込む二つの問題——早期性と持続性——を問い直す重要性を改めて示している。

このとき、高校段階のキャリア教育に求められるのは、早期決定や一貫性の“達成”を促すことではなく、むしろ揺らぎを前提としながら、高等教育や地域社会へと学びを接続するための条件整備ではないだろうか。とりわけ高大接続という事業のあり方を考えるうえでは、大学という空間を職業への単なる通過点としないための取り組みが求められる。大学を特定の職業に就くための「手続き」として捉えれば、大学で得る知識は単位や学位を取得するための「記号」（岡本 2025: 192）になりかねない。ある知識が何のために伝達されるのか。その知識は社会や人類全体にとってどんな意味をもっているのか。そうした知識の公共的意味を常に問う枠組みを大学教育が担保しておくことが、高校生が早期性でも持続性でもない水準から自身のキャリアを考える契機となるのではないか。反対に大学教育の意義が見失われれば、キャリア教育そのものが、職業選択の早期化と長期継続志望の規範化を前提とした学校空間の市場化を招くかもしれない。その意味で、高大接続に求められるのは、大学が多様なキャリアパスの単なる通過点ではなく、公共的な知の生産拠点であることを意識しておくことであろう。そのことを前提に「学びの接続」を考えていく必要がある。

最後に、本章の分析をより正確に把握するためには、学業成績やジェンダー、地元意識、職業意識、文化資本の量などを検討する必要があるだろう。今後はこれらの変数を投入し、職業検討の維持や変更を規定する要因を多変量的に検討する方法が考えられる。こうした作業は、既存のキャリア教育をめぐる議論を問い直す上でも重要な知見となるだろう。

【注記】

- 1) wave3 における選択肢の再編については次の通り。「薬剤師、保健師、助産師、看護師、医療技術者、栄養士、指圧師、鍼灸師」を、「薬剤師」「保健師、助産師、看護師」「医療技術者、栄養士」「指圧師、鍼灸師」に腑分け。「国家公務員、地方公務員」を「国家公務員」「地方公務員」に腑分け。
- 2) なお、本章で焦点化するのは、wave1 や wave2 の時点である職業を検討していた層が、wave2 や wave3 においても引き続き同職業を検討しているかどうか、という点である。本章ではこれを「持続」と定義する。
- 3) ここでは wave1、wave2、wave3 の全ての調査に回答しているケースに限定して分析を行っている。なお通時的な分析に際して、wave3 の段階で新たに行った職業の腑分けを、wave1 と wave2 に合わせる形で統合し直した。

【文献】

- 岡本智周, 2025, 「コラム②: 知識は他人と共有するからこそ意味がある」岡本智周編『多様性と凝集性の社会学』太郎次郎社エディタス, 189-196.
- 中央教育審議会, 2011, 『今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について (答申)』.